

地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

立少フェスティバル～芦峯寺オープンデー～

1 ねらい

- ・自然体験活動を通じ、自然や本所に親しみを感じる。また、家族での活動を通して、家族の絆を深める。

2 期日

令和7年10月18日（土）～19日（日）【1泊2日または日帰り】

3 対象

幼児・小学生を含む家族

4 募集人数 / 応募人数 / 参加人数

宿泊利用：25家族（90名）/25家族（89名）/22家族（81名）  
日帰り利用：92名（1日目）・72名（2日目）※事前予約不要

5 講師・スタッフ

法人ボランティア（7名）  
国立立山青少年自然の家元職員（6名）  
元法人ボランティア（1名）



6 後援・協力

後援：富山県教育委員会、北日本新聞社、一般社団法人立山黒部ジオパーク協会  
協力：株式会社フクール、立山舟橋商工会、上市警察署、立山町消防本部、黒部市吉田科学館  
国立妙高青少年自然の家、富山県呉羽青少年自然の家、富山県砺波青少年自然の家、  
黒部市ふれあい交流館あこや～の、一般社団法人富山県児童クラブ連合会、

7 日程

10月18日（土）1日目	10:00 受付 10:30～15:30 活動 16:30 タベのつどい・オリエンテーション（PH） 17:00～21:00 入浴 17:30 夕食 18:30～20:45 夜の活動  <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p><b>プレイホールで自由遊び</b> バドミントン、卓球等</p> <p><b>エントランスホールでまったり</b> 絵本、カードゲーム、けん玉等</p> <p><b>のんびり星空観察</b>（雨天の為中止） 立山ひろばで星空観察。 ライトアップ有。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-left: 20px;"> <p><b>たき火を囲もう</b>（雨天の為、テント設営） 正面玄関前でたき火。 ※たき火台と薪、竹串を準備。 ※各自でマシュマロなどのあぶりたいものを持ってくる。</p> <p><b>プラネタリウム（20分程度）</b> 1回目19:00～、2回目19:30～</p> </div>	
22:00 就寝		
日帰り参加	10:00 受付開始 10:30～15:30 活動	
10月19日（日）2日目	6:00 起床・部屋の掃除・整理 7:00 朝のつどい（PH） 7:30 朝食 8:40 部屋点検 9:30～14:00 活動（13:00より降雨の為、一部活動を中止）	

日帰り 参加	9:00～受付開始 9:30～14:00 活動 (13:00 より降雨の為、一部活動を中止)
-----------	---

※自由活動

- ・クラフト ・はたらく車 ・らいじいのふわふわドーム ・わなげ、射的 ・わたがし
- ・火おこし体験 ・森のかくれんぼ (森の探検) ・テントサウナ ・マウンテンバイク体験
- ・ウォータースライダー ・キッチンカー ・食堂屋台

## 8 参加者からの事後アンケート

- ・ウォータースライダーは、毎回子供たちが楽しみにしていて、今回も満足でした。火起こし体験は、大人がばててしまうくらい難しかったです。火をつけることができたときは子供と一緒に大喜びして、とてもよい体験になりました。次の日もやりたいと言って挑戦しました。
- ・森のかくれんぼ (森の探検) では、想像以上に道が複雑で大人も子供も本気になって歩いてとても楽しかったです。歩き切ったあと、おにぎりを食べたときに子供が「探検の後だからすごくおいしいね。」と話してくれました。
- ・焚火をしながらマシュマロを焼き、家族以外の方と触れ合えたのがとてもよかったです。
- ・毎回子供たちの為にながらんでいるスタッフさん達にはとても感謝しています。
- ・家でなら YouTube に頼りがちだけれども、ここでは自然の中で家族と一緒に元気に過ごすことができました。
- ・自然の家で宿泊することで子供たちにも自立を促すことができました。

## 9 成果

- ・「ウォータースライダー」は、回を重ねるごとに設備がブラッシュアップされていった。水を貯める水槽、チューブそりをスタートさせる傾斜、ポンプを動かすタイミングなど試行することで、より安全に参加者が取り組むことができた。
- ・夜の活動は、雨天の為星空観察はできなかったが、PHでの自由活動や正面玄関のアプローチやテントの下での焚火等、自由に活動を選んで行うことで、ゆったりと家族で楽しむことができた。焚火では、家族同士の交流が生まれた。
- ・昨年度に引き続き、立山舟橋商工会から「らいじいのふわふわドーム」を借用し、多くの子供が楽しめた。
- ・ハロウィンイベントとして、外看板や館内をハロウィン装飾した。(あと1キロまでの看板装飾、プロジェクションマッピング、ハロウィンフォトスポット) ハロウィンの雰囲気を感じながらのフェスティバルにすることができた。
- ・102をクラフト出展団体の控室 兼 参加者の休憩・喫食スペース、荷物置き場とし、脱衣場を着替えスペースとすることで昨年度の申し送りを解決できた。

## 10 今後の課題

- ・9月初旬にフェスの告知を行ったが、参加者の減少や参加希望者からの要望から、もっと早いお知らせが必要であった。HPやSNSでのフェスティバルの日程、活動予定等の広報を早めに行うとよい。できればチラシを早めに作成し告知を行うことができればよい。(宿泊学習やトントン探検隊に来た団体へのチラシの配布を行う。)
- ・国際大の学園祭と重なった日程となり、ボランティアの確保が難しかった。元職員、元ボラをボランティアに迎え入れて人数を補ったが不足していた。学園祭の日程を早くから確認する必要がある。
- ・所員の人員削減の為、いくつかの活動を絞ることで対応した。しかし、ボランティアの急なキャンセルや参加日程の変更により人員不足となり、不動棟周辺の活動に人員を十分配置できなかったため、休憩時間等の確保ができなかった。ボランティアを十分確保し、各活動を二人体制にできればよい。活動の休憩時間を作ることも検討。